

式 辞

人生の中で、十代の後半という時期は、一人の自立した大人として、社会を生きていく上での、土台や基盤が築かれる時期です。将来自分が生きていく中で、大切なものは何か・何を目標にして、何を目指して生きていくのか、物事の考え方や価値観が定まっていく大切な時期です。人生の方向性がはっきりと見えてくるのも、この時期なのだと思います。

だからこそ高校時代というのは、何物にも代えがたい重要な時間だと、私は考えています。

しかし高校生の頃は、子どもから大人への過渡期で、ある時は「まだ子どものくせに」と言われ、またある時は「もう子どもじゃないんだから」と言われる、まさに微妙な時期だと言えるでしょう。

そんな時期にあって大切なことは、焦らず一歩ずつでいいので、大人への階段を上っていくことです。

ただし、大人になるにあたっては、いくつかの条件があり、その中で決して忘れてはいけないもの・それが、自分の言葉・自分の行動に責任を持つ、ということです。

ネット上でつぶやいた言葉を含めて、自分が発言した内容とその結果に対して責任を持つこと。自分のとった行動とその影響に対し、人のせいにしないこと。

「そがんこと、知らんやった」

「そんなつもりじゃなかった」

「こんなことになるなんて、思ってもみなかった」

「〇〇君だって、しよったもん」

「だって、お父さんが……。お母さんが……」

言い訳をしたり、人のせいにしたりせず、自分の発言と行動に責任を持つこと。これは大人になるにあたって、とても大切なことです。

茨木のり子さん、という詩人がいます。今日はその、たくさんの中から、茨木のり子さんの代名詞とでも言うべき詩を、紹介します。

『自分の感受性ぐらい』

ばさばさに乾いてゆく心を

ひとのせいにはするな

みずから水やりを怠っておいて

気難しくなってきたのを

友人のせいにはするな

しなやかさを失ったのはどちらなのか

苛立つのを
近親のせいにはするな
なにもかも下手だったのはわたくし

初心消えかかるのを
暮らしのせいにはするな
そもそもが ひよわな志しにすぎなかった

駄目なことの一切を
時代のせいにはするな
わずかに光る尊厳の放棄

自分の感受性くらい
自分で守れ
ばかものよ

感受性というのは、美しいものを見て、素直に美しいと感じ、感動する心です。

しかし毎日の慌ただしさの中で、そんな心でさえ鈍くなってしまい、社会が・時代がと、誰かのせいにしがちです。いや誰かに責任転嫁することにより、自分自身を守ろうとしているのです。

しかしどんな言い訳をしたところで、自分を守ることなど出来やしません。自分を本当に守るには、強い意志と、みずからの考えを信じる 強い気持ちに裏打ちされた行動力が必要です。

新入生みなさん。みなさんのみずみずしい感受性を大切にしてください。今持っている感受性を、もっと・もっと豊かに育てていってください。それは、自分自身の責任でもあるのです。松浦高校は、生徒一人ひとりが自分の感受性を育みながら、価値観や生き方を確立して、自立した一人の大人になっていくのを、全力でサポートする学校です。

それにしても、素敵な詩だと思いませんか？ この詩を通して深く考えなければいけないのは、実は、我々・大人の方なのかもしれませんね。

厳しい寒さから解放され、木々に緑が芽吹き、花々が一斉に咲き誇る。まさに美しい松浦の春の到来を実感する、今日のこの佳き日

松浦市長・友田吉泰（ともだ よしやす）様をはじめ、多くのご来賓ならびに保護者の皆様のご臨席をたまわり、平成三十一年度 長崎県立 松浦高等学校 第五十八回入学式を挙行できますことは、私たち教職員にとりまして大きな

喜びであります。これも関係の各中学校の先生方や、松浦市・そして地域の方々のお力添えのたまものと、厚く御礼申し上げます。

さきほど、原田 希美（はらだ のぞみ）さん以下、六十四名の入学を許可いたしました。

新入生のみなさん、入学おめでとう。

そして保護者の皆さま、心よりお祝い申し上げます。

本校は「『自己開拓』に全力を注ごう。正しい人間関係を築いていこう。よき市民性を身につけよう。」という三本の柱を校訓に掲げ、松浦市からの手厚い支援と市民からの熱い期待を受け、学校の魅力化を推し進めているところです。

長崎県は現在、急激な人口減少・人口流出という危機に直面しています。ここ松浦市も例外ではありません。自分には関係ない・誰かがしてくれる、という考え方から脱却し、一人ひとりが、自分に出来ることは何だろう、という視点で取り組んでいかなければならない問題だと考えています。そしてその鍵を握るのが、あなたたち、高校生なのです。

新入生の皆さん、松浦は好きですか？ ふるさとは好きですか？ 松浦のために・自分のふるさとのために、自分に何が出来るか、考えたことがありますか？

松高での三年間は、自分自身の可能性を大きく広げるとともに、地域貢献・社会貢献といった取り組みにも、ぜひチャレンジしてみてください。

自らの意志で、多くの他者と語らい・対話して、これまでにはない深い学びが実現することを期待しています。

何かに一生懸命になること。

いっぱい汗を流すこと。

ひたむきに、真剣に、一つのことに没頭すること。

目をキラキラ輝かせること。

それらは全て、すごくカッコいいことです。

そんな経験こそが、自立した一人の青年・素敵な大人に、あなたたちを成長させてくれます。

さあ今日から君たちの、松浦高校での高校生活が、スタートします。

準備はいいですか？

いま、スタートのピストルが鳴り響きます。

平成三十一年 四月八日 長崎県立 松浦高等学校長 中 上 徹

引用：茨城のり子『自分の感受性くらい』 花神社：1977年より